三沢市地域公共交通網形成計画

概　要　版

目　次

1. 計画の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2. 公共交通のあり方(目指す将来像)と基本方針・目標 ・・・・・・・・2
3. 目標達成に向けた施策展開 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
4. 今後の進め方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

平成 28 年 3 月

三沢市

1. 計画の概要

1-1 計画の目的

三沢市地域公共交通網形成計画は、三沢市総合振興計画並びに三沢市都市計画マスタープランに基づき地域が目指す将来像を実現していくための公共交通のあり方を検討するとともに、将来にわたって市民の生活を支える持続可能な地域公共交通体系の構築に向けた取り組みを定めるものです。

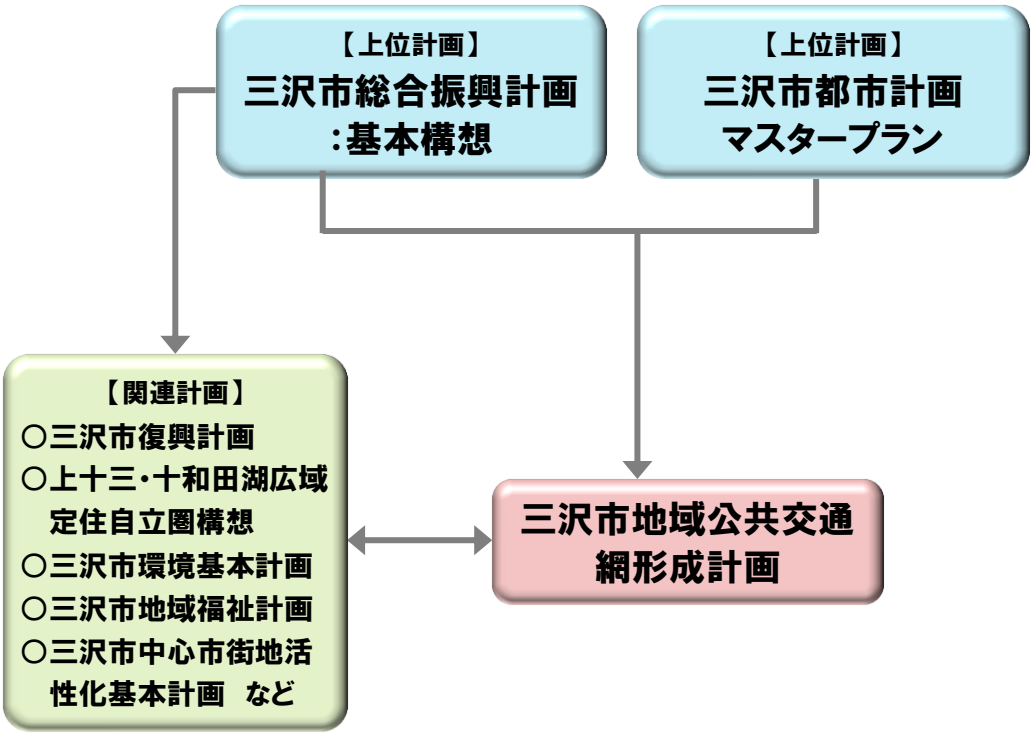
1-2 計画の対象区域と期間

計画の区域：三沢市の行政区域全域

計画の期間：平成 28 年4月から平成 33 年3月までの5か年

1-3 計画の位置づけ

三沢市地域公共交通網形成計画は、市政における全ての施策の基本となり本市の今後の進むべき方向を明確にするための総合的・長期的な計画である「三沢市総合振興計画：基本構想」、及び都市の将来像を描いた「三沢市都市計画マスタープラン」に基づくもので、本市で取り組む様々な計画を踏まえた上で定めています。



▲地域公共交通網形成計画の位置づけ

2. 公共交通のあり方（目指す将来像）と基本方針・目標

公共交通のあり方（目指す将来像）

「市民の生活」「交流」「まちの活力」を支え、愛される公共交通
～人が行き交い、にぎわいが生まれるまちを目指す～

公共交通の基本方針

市民の生活を支える	通勤、通学、買い物、通院、その他サークルや習い事などの諸事など、多様な日常の移動ニーズに応える公共交通
交流を支える	年間通じて開催されている多彩なイベントへの参加や、三沢市特有の観光資源に触れる機会を支える公共交通
まちの活力を支える	公共交通での中心市街地へのアクセスを確保し、人が集まることで商業振興を図り、中心市街地の活性化を支える公共交通

Ⅰ．日常生活を支える基本的な移動手段としての公共交通

Ⅱ．都市の核となる都市機能集積エリアでの活動を支える公共交通

Ⅲ．域外との人の流れを生む公共交通

Ⅳ．持続可能な公共交通

地域特性からみた課題

- 進行する高齢化や三沢市特有の人口分布への対応
- 中心市街地へのアクセス手段の確保
- 市内外への生活移動ニーズへの対応
- 広域圏の移動ニーズへの対応

連携計画で残された課題

- 北部・東部地域における新たな公共交通システムの導入
- 利用者にやさしい利用環境整備プロジェクトの継続
- 協働によるバス利用促進プロジェクトの継続

公共交通の問題点・課題

- 100 円均一運賃による収益の低迷
- 同一区間における異なる運賃体系の混在
- 北部地域における利用の低迷
- 東部地域における利用の低迷
- 駅シャトル線の利用の低迷
- 広域交通ネットワークの強化
- 現在の公共交通利用者の移動手段の維持

三沢市地域公共交通網形成計画の目標

1）市民の日常生活における移動ニーズに応じた公共交通の再編

2）持続可能性も考慮した、わかりやすく、利用しやすいバス運賃の設定

3）利用しやすい公共交通利用環境の整備

4）中心市街地に人を呼び込み、活性化を図る

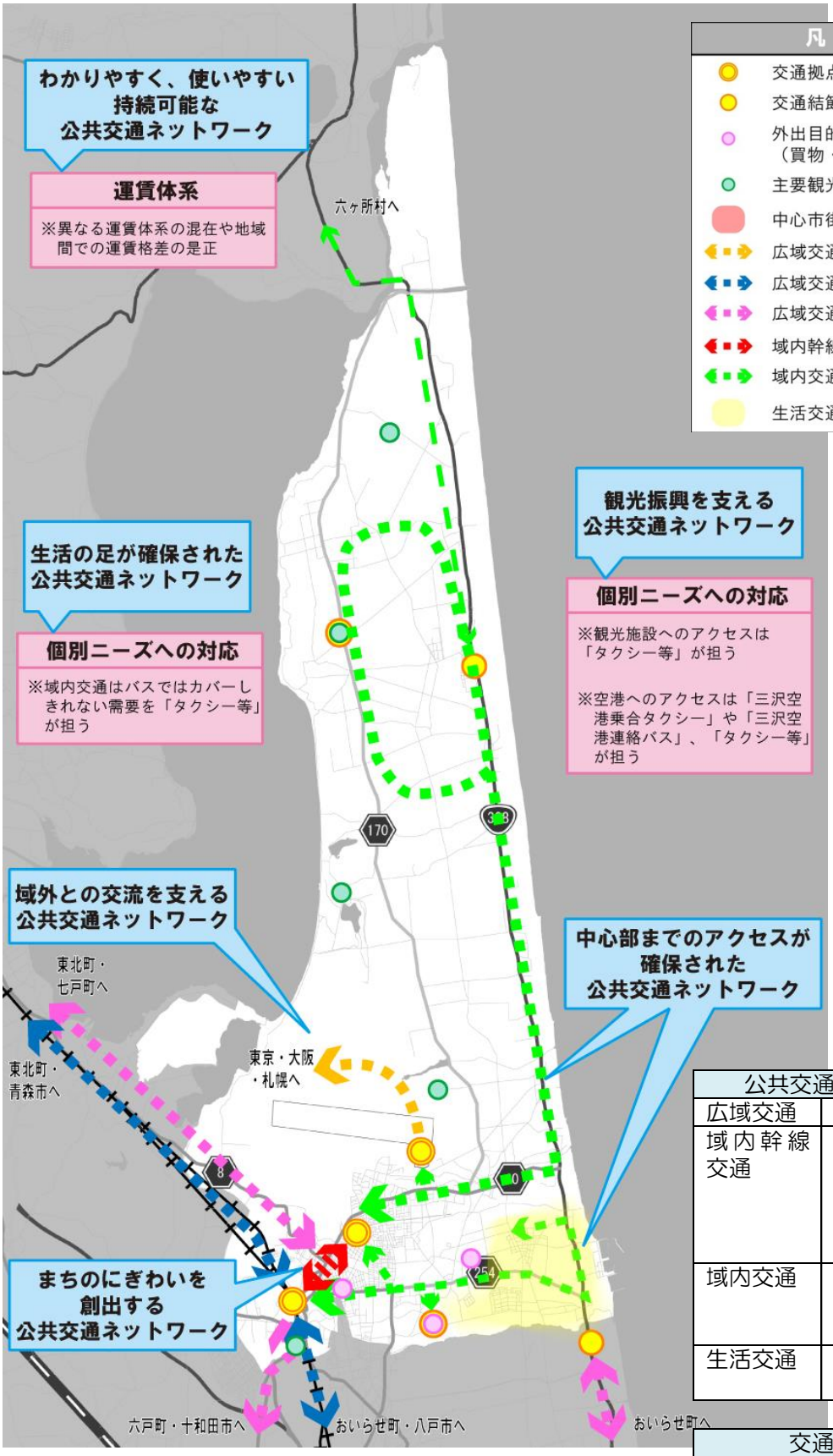
5）三沢空港や三沢駅へのアクセス向上を図るとともに、観光施設と連携した観光振興を図る

6）モビリティ・マネジメント※等の展開による公共交通の利用促進

※モビリティ・マネジメント（Mobility Management、略称MM）とは、市民や組織・地域のモビリティ（移動状況）が「過度に自動車に頼る状態」から、「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に（＝かしこく）利用する状態」へと少しずつ変えていくための、コミュニケーション施策を中心とした取り組み。

7）市民・行政・交通事業者が一丸となった取り組みによる公共交通の持続可能性の向上

公共交通ネットワークの将来イメージ



▲　三沢市公共交通ネットワークの将来イメージ図（市全体）

公共交通機関・路線の位置付け	
広域交通	域外との交通を確保する。
域内幹線交通	三沢駅～市役所間を市内公共交通網の幹線区間と位置づけ、市民の移動を確保するとともに、中心市街地の活性化に寄与する。
域内交通	三沢駅・市役所から各地域を結び、中心市街地へのアクセスを確保する。
生活交通	各地域から域内交通へのアクセスを確保する。

交通拠点・交通結節点	
交通拠点	広域交通と域内幹線交通または域内交通を結節する空港・駅・バス停
交通結節点	広域交通と生活交通を結節するバス停

3. 目標達成に向けた施策展開

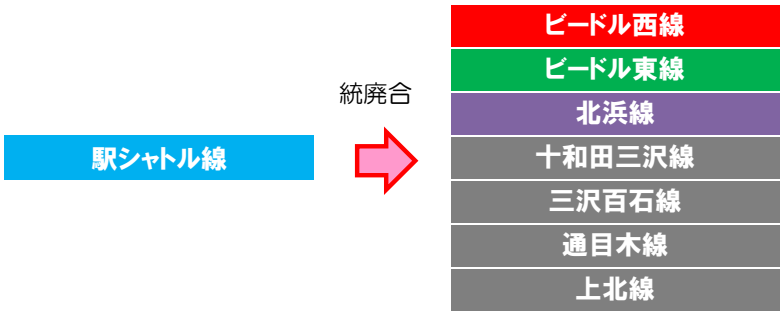
3-1 施策展開

【目標１)】市民の日常生活における移動ニーズに応じた公共交通の再編

【施策①】主な利用者である高校生や高齢者の利便性に重点をおいた継続的なルートやダイヤの見直し

利用が少ない路線・系統について、市民のニーズ、特に現在の主な利用者である高校生や高齢者の利便性に重点を置きつつ、効率的な運行に向け、継続的なルートやダイヤの見直しを行い、より利便性の高い公共交通ネットワークの構築を図ります。

- 駅シャトル線の他路線への統廃合を検討します。
- ビードル西線・東線の新たなニーズの掘り起しを検討します。
- 市民ニーズに即した継続的なルートやダイヤの見直しを図ります。



【施策②】東部地域の住民ニーズに即した公共交通サービスの提供

地域内を運行する大津前平線の利用が僅かとなっているなど、提供サービスとニーズが乖離している可能性がある東部地域において、住民ニーズに即した公共交通サービスを提供し、効率化を図るとともに、より使い勝手の良い移動手段の確保を図ります。

- 高校生のニーズにあった通学路線への見直し
  現行の大津前平線の朝・夕の便を主に高校生の通学需要に対応する路線として位置付け、ニーズにあったダイヤへの見直しを行った上で、維持します。

東部地域の朝夕の公共交通ネットワークイメージ ▶

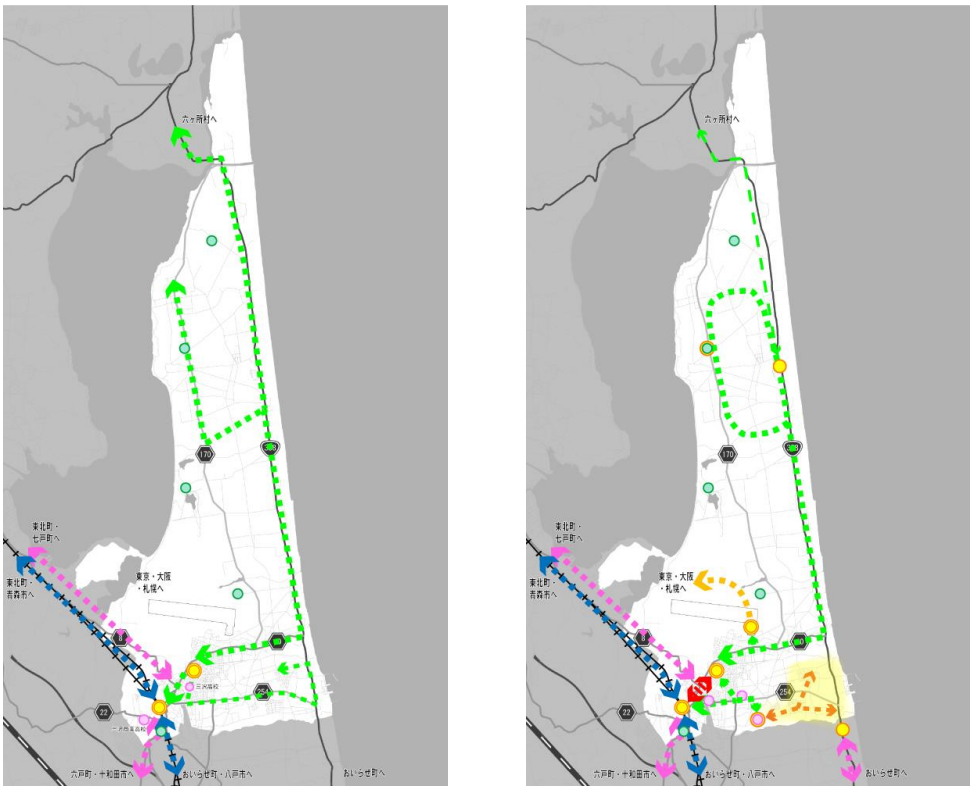
- 日中の通院や買い物需要に対応した利便性の高い公共交通体系への再編を検討します。
  三沢駅や中心部とのアクセスが充実している市立病院を交通拠点として位置付け、市立病院までのアクセスを新たな交通システムの導入により確保することで、乗車チャンスの増加を図ります。

東部地域の日中の公共交通ネットワークイメージ ▶

【施策③】北部地域における、効率性を考慮しつつ、中心部までの生活の足を確保する公共交通体系への見直し

利用が僅かとなっている北浜線・北浜木崎野線について、北部地域の住民ニーズと効率性を考慮しつつ、公共交通体系の見直しを行い、中心部までの移動手段の確保を図ります。

- 高校生・通勤者のニーズにあった通学・通勤路線への見直し
  現行の北浜線の朝・夕の便を主に高校生・通勤者の通学・通勤需要に対応する路線として位置付け、ニーズにあったダイヤへの見直しを行った上で、維持します。
- 日中の通院や買い物需要に対応した利便性の高い公共交通体系への再編を検討します。
  北浜線・北浜木崎野線の各系統を統合し、おおぞら小学校や道の駅みさわを交通拠点として位置付け、路線バスを運行し、交通拠点から先の移動手段を新たな交通システムで確保するなど、効率性を考慮しつつ、利便性の向上を図る再編の検討を進めます。



▲北部地域の公共交通ネットワークイメージ（左：朝夕、右：日中）

【目標２)】持続可能性も考慮した、わかりやすく、利用しやすいバス運賃の設定

【施策④】異なる運賃体系の混在や地域間での運賃格差の是正

持続可能性も考慮した、わかりやすく、利用しやすいバス運賃の設定を行うことで、異なる運賃体系の混在や地域間での運賃格差を是正し、利便性の向上を図ります。

- 市全体の運賃体系の見直し
  - 100 円均一運賃の値上げおよび区間の縮小を検討します。
  - 路線バス運賃の初乗り運賃の値下げを検討します。
  - 東部地域の新たな公共交通の運賃を、中心部の均一運賃と同額の均一運賃を検討します。
  - 北浜木崎野線オトクな２枚きっぷの本格運用を検討します。
  - 一日乗車券等の企画券の運用を検討します。

【目標３）】利用しやすい公共交通利用環境の整備

【施策⑤】バス待ち環境のさらなる改善

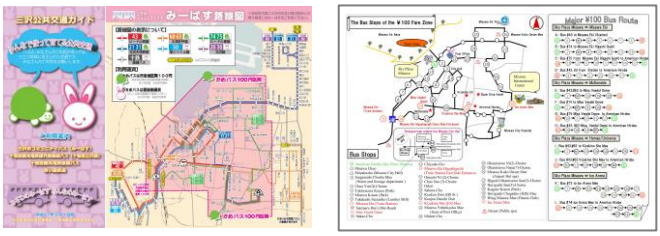
バスロケーションシステムやバス停の上屋・ベンチの整備をさらに展開し、利用しやすい公共交通利用環境の整備を図ります。

- バスロケーションシステムを利用の多いバス停から優先的に設置します。
- バス停の上屋・ベンチを利用の多いバス停から優先的に設置します。

【施策⑥】公共交通に関する情報提供のさらなる充実

公共交通に関する情報提供をさらに充実させ、公共交通利用者の利便性の向上を図ります。

- 三沢市ホームページでの公共交通に関する情報提供の充実と利便性の向上を図ります。
- バスのルートやダイヤの見直しに合わせて、総合時刻表「三沢公共交通ガイド」や外国人向け公共交通マップの改訂を行います。
- 三沢駅等交通拠点における案内表示の多言語化を実施します。



▲左：三沢公共交通ガイド（平成 27 年度版）、
右：外国人向けバスマップ

【施策⑦】三沢駅周辺整備と合わせた、鉄道とバスやタクシー等との乗継利便性の向上

三沢駅周辺整備を推進し、鉄道とバスやタクシー等との乗継利便性の向上を図ります。

- 三沢駅周辺整備の推進
  三沢駅周辺整備を推進し、鉄道とバスやタクシー、その他交通資源などの二次交通との円滑な乗り継ぎを確保することで、交通結節点としての機能強化を図り、一体的な公共交通ネットワークを形成します。
- 新たな三沢駅前広場等の運用についての検討
  三沢駅周辺整備に際して、駅前広場の運用や、乗り場へのサイン計画、二次交通の情報掲載などについて、各交通事業者による検討を行い、整備内容に反映します。

▲三沢駅周辺整備基本構想ゾーニング図（素案）

【目標４）】中心市街地に人を呼び込み、活性化を図る

【施策⑧】商業や医療、イベントと連携した公共交通の利用促進

商業や医療、イベントと連携した公共交通の利用促進を図り、中心市街地の活性化につなげます。

- 行政・交通事業者・地域の協働により、公共交通の利用促進と中心市街地の活性化の双方のメリットにつながる取り組みを進めます。

▲民間施設の風除室を活用した
待合所のイメージ（八戸市）

▲買い物客に対するバス無料券の
提供のイメージ（熊本県八代市）

【目標５)】三沢空港や三沢駅へのアクセス向上を図るとともに、観光施設と連携した観光振興を図る

【施策⑨】広域交通と二次交通の一体的な公共交通ネットワークの構築

航空や鉄道などの広域交通と、その他の交通資源なども含む二次交通との一体的な公共交通ネットワークの構築により、三沢空港や三沢駅へのアクセスを向上させ、市域を越えた広域交通を支えます。

- 広域交通拠点から各主要施設までの二次交通における各交通機関の役割分担と連携
- 広域交通拠点、各主要施設における各交通機関の情報提供
- 観光施設と連携した二次交通の利用促進

▲青い森鉄道と連携した観光周遊定額タクシー

▲三沢空港連絡バスを活用したバスパック

【目標６)】モビリティ・マネジメント※等の展開による公共交通の利用促進

【施策⑩】多角的なモビリティ･マネジメント※の継続的な実施

イベントとタイアップした利用促進イベントの継続的な実施や、多様なターゲットを対象としたモビリティ・マネジメント※施策を実施することで、市民の公共交通に対する認知度・定着を図るとともに、利用促進につなげます。

- 一般市民向けの取り組みとして、現在取り組んでいる市内イベント会場での利用促進イベントの継続と展開を検討します。
- 市民や転入者、通勤者、通学者などを対象に、公共交通への利用促進を図るモビリティ･マネジメント※施策の実施を検討します。

平成 27 年度の利用促進イベントの様子 ▶

▼モビリティ・マネジメントの実施イメージ

区　分	対　象	概　要
学校MM	生徒	○高校生を対象に、入学時に情報提供や働きかけを実施し、通学等の移動に公共交通を利用する意識を醸成
企業MM（通勤MM）	就労者・企業	○市内に立地する企業やその就労者を対象に、情報提供や働きかけを実施し、通勤時等の自動車利用を抑制する意識を醸成
居住者MM	居住者	○公共交通の大幅な見直しを実施する地域の居住者等を対象に、情報提供や働きかけを実施し、日常の移動に公共交通を利用する意識を醸成
転入者MM	転入者	○市外からの転入者を対象に、情報提供や働きかけを実施し、自動車に過度に依存しないライフスタイルの構築を促進

※モビリティ・マネジメント（Mobility Management、略称 MM）とは、市民や組織・地域のモビリティ（移動状況）が「過度に自動車に頼る状態」から、「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に（＝かしこく）利用する状態」へと少しずつ変えていくための、コミュニケーション施策を中心とした取り組み。

【施策⑪】高校生や高齢者にターゲットを絞った利用促進策の展開

公共交通の主な利用者である高校生や高齢者をターゲットに、利用促進策を実施し、さらなる利用増加を図ります。

- 高校生への利用促進策を検討します。
  - ・高校内の掲示板へのバス・鉄道の時刻表の掲示
  - ・三沢商業高校へのカリキュラムに含まれている課題研究のテーマとして「公共交通の利用促進」の提案
- 高齢者への利用促進策を検討します。
  - ・公共交通を利用した社会見学などの企画
  - ・老人会やサークル活動での利用についての積極的な呼びかけ

【目標７)】市民・行政・交通事業者が一丸となった取り組みによる公共交通の持続可能性の向上

【施策⑫】事業者サポーター制度の構築

事業者サポーター制度を構築し、活動を通じて、公共交通への愛着を醸成するとともに、公共交通の維持を図ります。

- 事業者サポーター制度の構築を検討します。
  - ・バス停のネーミングライツ※や、バス停・バス車両等への広告掲載などの募集

※ネーミングライツ：
バス停名称の命名権

バス停のネーミングライツのイメージ（富士宮市）▶

【施策⑬】改善要望等を積極的に収集する仕組みの構築

市民からの公共交通に対する改善要望等を収集する仕組みを構築し、改善要望等を基に公共交通の見直しをかけ、より便利で快適な公共交通の実現を図ります。

- 市民からの公共交通に対する改善要望等を収集する仕組みを構築します。
- 収集した改善要望に対して検討を行い、運行に反映させます。

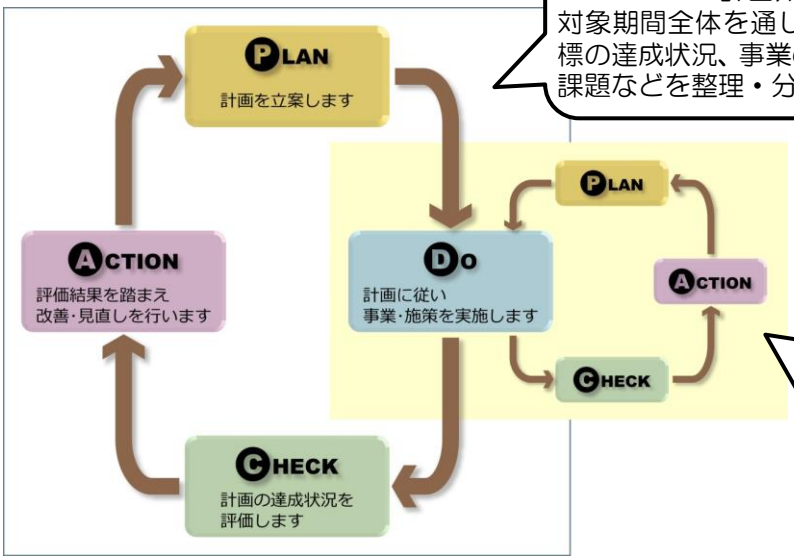
▲改善要望等を収集する仕組みのイメージ（青森県八戸市）

3-2 施策の実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H28	H29	H30	H31	H32
【施策①】主な利用者である高校生や高齢者の利便性に重点をおいた継続的なルートやダイヤの見直し						
駅シャトル線の統廃合	市、事業者（十和田観光電鉄㈱）	検討	**実施**	評価・検証	継続又は見直し	
新たな需要の掘り起し検討	市、事業者（十和田観光電鉄㈱）	**検討・実施・評価検証を随時実施**				
継続的なルートやダイヤの見直し	市、事業者（十和田観光電鉄㈱）,地域住民等	**検討・実施・評価検証を随時実施**				
【施策②】東部地域の住民ニーズに即した公共交通サービスの提供						
通学路線への見直し	市、事業者（十和田観光電鉄㈱）,地域住民等	検討	**実施**	評価・検証	継続又は見直し	
日中の公共交通体系の再編	市、事業者（十和田観光電鉄㈱）,地域住民等	検討	**実施**	評価・検証	継続又は見直し	
【施策③】北部地域における、効率性を考慮しつつ、中心部までの生活の足を確保する公共交通体系への見直し						
通学・通勤路線への見直し	市、事業者（十和田観光電鉄㈱）,地域住民等	検討	**実施**	評価・検証	継続又は見直し	
日中の公共交通体系の再編	市、事業者（十和田観光電鉄㈱）,地域住民等	検討	**実施**	評価・検証	継続又は見直し	
【施策④】異なる運賃体系の混在や地域間での運賃格差の是正						
市全体の運賃体系の見直し	市、事業者（十和田観光電鉄㈱）	検討		**実施**	評価・検証	継続又は見直し
【施策⑤】バス待ち環境のさらなる改善						
バスロケーションシステムの展開	市、事業者	検討				**実施 評価・検証**
バス停の上屋・ベンチの設置	市、事業者	**実施**	評価・検証	継続又は見直し		
【施策⑥】公共交通に関する情報提供のさらなる充実						
三沢市ホームページでの情報提供の充実	市、事業者	検討	**実施**	評価・検証	継続又は見直し	
総合時刻表等の改訂	市、事業者		検討 **実施**	評価・検証	随時、路線・ダイヤ変更に伴い実施	
交通拠点における案内表示の多言語化	市、事業者	検討 **実施**	評価・検証	継続又は見直し		
【施策⑦】三沢駅周辺整備と合わせた、鉄道とバスやタクシー等との乗継利便性の向上						
駅周辺整備の推進	市	計画・設計・施工				**供用 評価・検証**
駅前広場等の運用の検討	市、事業者	**検討**			**情報提供等**	

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H28	H29	H30	H31	H32
【施策⑧】商業や医療、イベントと連携した公共交通の利用促進						
公共交通の利用促進と中心市街地の活性化の双方につながる取り組み	市、事業者、地域住民等	検討	実施	評価・検証	継続又は見直し	
【施策⑨】広域交通と二次交通の一体的な公共交通ネットワークの構築						
広域交通を確保する各交通機関の役割分担と連携	市、事業者	検討		実施	継続又は見直し	
主要施設における状況提供	市、事業者、地域住民等	検討	実施	評価・検証	継続又は見直し	
【施策⑩】多角的なモビリティ・マネジメント※の継続的な実施						
利用促進イベントの継続実施	市、事業者	実施	評価・検証	継続又は見直し	毎年ブラッシュアップしながら実施	
モビリティ・マネジメントの検討	市、事業者	検討	実施	評価・検証	継続又は見直し	
【施策⑪】高校生や高齢者にターゲットを絞った利用促進策の展開						
高校生への利用促進策の実施	市、事業者、地域住民等	検討	実施	評価・検証	継続又は見直し	
高齢者への利用促進策の実施	市、事業者、地域住民等	検討	実施	評価・検証	継続又は見直し	
【施策⑫】事業者サポーター制度の構築						
事業者サポーター制度の構築	市、事業者、地域住民等	検討	実施	評価・検証	随時、制度の見直しを行いながら毎年実施	
【施策⑬】改善要望等を積極的に収集する仕組みの構築						
公共交通に対する改善要望等を収集する仕組みの構築	市、事業者、地域住民等	検討	運用	適宜、運行に反映		

4. 今後の進め方



【大きなPDCAサイクル】
計画期間（5か年）
対象期間全体を通した事業の実施状況や数値目標の達成状況、事業の実施による効果、残された課題などを整理・分析し、次期計画に反映

【小さなPDCAサイクル】
毎年
事業の実施状況などを整理するとともに、利用状況などを継続的にモニタリングし、事業内容の修正やスケジュールの見直しなどを実施